

汎用的教育コンテンツ利用実績紹介フォーム

1. 利用情報

| | |
|--|--|
| 教育機関名 | 清泉女学院大学 |
| 学部・学科名 | 人間学部 心理コミュニケーション学科 |
| コース名・講座名等 | 心理コース |
| 対象学年・受講者数 | 3 年次 22 名 (講座等の履修登録者数を記載してください) |
| 講座実施期間 | 2014年 4月 ~ 2014年 8月 |
| 利用コンテンツ名 (該当口をプルダウンで■にしてください) | <input type="checkbox"/> プロジェクト型システム開発チーム演習教育コンテンツ |
| | <input checked="" type="checkbox"/> パーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成教育コンテンツ |
| | <input type="checkbox"/> ソフトウェア開発技法実践的演習教育コンテンツ |
| | <input type="checkbox"/> 情報セキュリティ実践的教育コンテンツ |
| | <input type="checkbox"/> 「要求工学を活用した問題発見と情報システムによる解決」実践的教育コンテンツ |
| コンテンツの利用形態 (該当口をプルダウンで■にし、必要事項をご記入ください) | 1. 利用したコンテンツ |
| | <input type="checkbox"/> ①シラバス |
| | <input checked="" type="checkbox"/> ②講義スライド |
| | <input checked="" type="checkbox"/> ③講義ノート |
| | <input checked="" type="checkbox"/> ④演習課題 |
| | <input type="checkbox"/> ⑤各種設計書 |
| | <input type="checkbox"/> ⑥テスト問題と解答例 |
| | <input type="checkbox"/> ⑦ティーチングガイド |
| | <input type="checkbox"/> ⑧受講レポート |
| | <input type="checkbox"/> ⑨ソースコード |
| | 2. コンテンツの利用方法について |
| | <input type="checkbox"/> 1. 教育コンテンツ全てをそのまま利用 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 教育コンテンツの一部をそのまま利用 |
| | (利用範囲) 第2回 ロジカルシンキングの基本となる思考を利用 |
| | <input type="checkbox"/> 3. 教育コンテンツを改変して利用 |
| (改変範囲) | |

| 講座の全体構成(シラバス) ※単元ごとの学習項目、講義形態、コンテンツ利用の有無を記す | | | |
|---|-----------------------|-------------------------|----------------|
| | 単元と時間配分(1コマ= 90分で実施) | プルダウンで該当項目を選択してください | |
| | * 短期集中講座の場合は、日単位で結構です | 講義形態 (座学、個人演習、チーム演習) | 単元でのコンテンツ利用の有無 |
| 1 | ガイダンス | 座学 | 無 |
| 2 | 考えをまとめる手法① | チーム演習 | 無 |
| 3 | 考えをまとめる手法② | チーム演習 | 無 |
| 4 | クリティカルシンキング① | チーム演習 | 有 |
| 5 | クリティカルシンキング② | チーム演習 | 無 |
| 6 | 文献検索ツアー | 個人演習 | 無 |
| 7 | 発表:論文の書き方① | チーム演習 | 無 |
| 8 | 発表:論文の書き方② | チーム演習 | 無 |
| 9 | 発表:論文の書き方③ | チーム演習 | 無 |
| 10 | 中間テスト(論文の書き方) | 個人演習 | 無 |
| 11 | 研究論文のまとめと発表① | チーム演習 | 無 |
| 12 | 研究論文のまとめと発表② | チーム演習 | 無 |
| 13 | 研究論文のまとめと発表③ | チーム演習 | 無 |
| 14 | 研究論文のまとめと発表④ | チーム演習 | 無 |
| 15 | 研究論文のまとめと発表⑤ | チーム演習 | 無 |
| 特記事項 | | | |

| | |
|-------------------------------------|---|
| コンテンツ利用の狙い・目的 | データを読み取り、仮説を立てることができるようになるための準備として利用 |
| 講座の位置づけ 学生の履修前提条件 | 3年生対象のゼミナール。統計の基礎の授業を履修していることが望ましい。 |
| 授業の進め方 | 5回目までは、発想を柔軟にしたり、論理的思考ができるようになるための訓練としての位置づけ。 6回目以降は、最終的に自分の興味のある論文を発表することを目的とし、その前段階として研究論文の構成を知り、実際に論文を検索方法を学ぶセッションを実際の発表前に5コマ分入れた。 演習では、ポストイット、模造紙、「卒論の書き方」のテキストを利用した。 |
| 産学連携で実施した場合の 企業支援内容 (該当の場合のみ) | |

2. 講座実施後の情報

| | |
|------------------------|---|
| 受講者の感想 (本講座で得られたもの) | 授業評価は、5点満点中4点弱。自由記述は特になし。 |
| 教員の評価 | 身近な例を使って練習させたくコンテンツを利用したが、心理学により近づけた例を用いた形に改変すべきであった。 非常によく作られたコンテンツと感じた。科目の都合上、一部のみの利用となったが、このコンテンツを積極的に利用する科目を検討したい。 |
| 今後の展望 (継続に向けた課題) | 初年時教育担当になった場合、積極的に利用を考えたい |
| その他(ご意見等) | |